

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

経営者への活きた言葉

税理士法人 優和

TEL 03-3455-6666
FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

「大きい数値」がもてはやされる時代、磨くべきは「小さなものを見る力」

松岡 正剛 (編集工学者)

1. 世界にあふれる情報をいかに編集し活用するか考え続けてきた立場からすると、今の日本には気がなることがあります。「小さいものを見る力」が失われてきていることです。小さなところに亀裂が入り、それが大きなことにつながる。こういう視点が社会からだんだんなくなっているのではないかと危惧しています。その一方で目立ってきたのが、「大きい数値」に対する過剰な信用です。
2. フェイスブックの「いいね」やツイッターのフォロワー数も大きいほど、そこから発信される情報に価値があるとされます。数の多さに意味がないわけではありません。それだけでは「1羽の鳥」の動向に注目できなくなってしまいます。大きい数値を持つ情報に人々が頼る背景には、社会の安定志向などがあるのですが、その結果、弱く、小さく、目立たない情報は語られなくなっています。
3. フェイスブックの「いいね」では、その情報に接した人の量は測定できても、その情報の価値は推し量れません。その情報の厚みまで示す指標は今のところつくられていません。多様化とは基本的に「大きいものもあるけど、小さいものもあってそれを同じように扱う」という見方です。ダイバシティーやバラエティーといったことを大切にしたいのであれば、小さなもの、少数なもの、弱いもの、壊れやすいものから発信される情報にも目を向けたほうが良いと思います。

(参考:「日経ビジネス」2021年3月29日号)

経営者のための危機管理

危機とは危険と機会(ケネディ元米大統領)

小峰 隆夫 (大正大学地域構想研究所教授)

1. かつてケネディ元米大統領は、キューバ危機の際に「危機という言葉は、漢字では危険と機会という2つの組み合わせでできている」と演説した。確かに、日本経済は石油危機を契機として省エネ型の製品を開発し、1980年代の後半の円高では生産過程の効率化を進め、阪神・淡路大震災のときにはボランティア活動を活性化させるなど、危機を変革の機会に変えてきた。
2. コロナ危機に際して景気対策を議論するのは必要であるが、これを好機としてプラス方向へ変革を進めるようという議論も必要である。私は今回のコロナ危機を契機に企業、家計、政府が知恵を絞り、それまで考えられていなかったような新しい日本経済の姿が現れてくるのではないかと考えている。

(参考:「週刊東洋経済」2021年3月20日)

新規成長分野

大企業が相次いで農業事業に参入(三井不動産)

1. 三井不動産や三菱商事などの大企業が相次いで農業事業に参入し、有力農家を囲い込んでいる。不動産デベロッパー最大手、三井不動産が有力農業法人のワールドファームと資本提携し、壮大な農業再生プロジェクトを始動させた。ワールドファームは、ダイヤモンド編集部が毎年選定する「レジェンド農家トップ20」の首位をほぼ独占してきた農場であり、両者の資本提携は、強者と強者のタッグといえる。
2. そもそも、街づくりをなりわいにしてきた三井不動産が農業に参入するのは、都心から約100kmの通勤圏内の郊外を農業で活性化させるためだ。農産物は開発した都心のホテルなどで使う。都心と郊外との間でヒトと農産物を往来させ、農業と街を同時に振興させようという野心的な試みなのである。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2021年3月20日号)

古典に学ぶ

貧富者の調和をはかること(識者の役割)

(解説) 結果として貧富の懸隔を生ずるものとすれば、それは自然の成行である。とは云え常にその間の関係を円滑ならしめ、両者の調和をはかることに意を用いることは、識者の一日も欠くべからざる覚悟である。これを自然の成行き人間社会の約束だからと、その成るままに打棄て置くならば、ついに由々しき大事^{じきつぎ}を惹起するに至るはまた自然の結果である。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)